

## 平成27年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	女性キャリア形成プロジェクト
研究所名	女性キャリア形成研究所（所長 人間社会学科 竹内 美香 教授）
設置開始	2015. 4. 1
設置終了	2018. 3. 31

### ■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

#### I. 2015年度公開講座「キャリア探究トークシリーズ」実施

多様な業界で着実に就業を継続し、実績を積み、社会的貢献を続けている女性を講師に招いて、それぞれの仕事、キャリア・パス、展望、学生たちへの言葉などを語って頂く講演会を開催した。前期は渋谷キャンパスで、後期は日野キャンパスで、それぞれ可能な限り学生たちが集合しやすい平日の昼休みなどの時間帯に開講し、好評を得た。

##### (1) 渋谷キャンパス（幹事：山下早代子教授）

- 1) 2015年 4月28日（火） 野口恵里花氏（読売新聞東京本社記者）
- 2) 2015年 5月26日（火） 小林裕子氏（法廷通訳者・本学人間社会学部英語学担当）
- 3) 2015年 6月30日（火） 小林香咲氏（JICA 国際協力機構人事部人事課）
- 4) 2015年 7月14日（火） 中川晴恵氏（オランダ政府観光局日本地区局長）
- 5) 2015年 10月18日（日） 小林悠氏（TBS アナウンサー）

##### (2) 日野キャンパス（幹事：須賀由紀子教授 他）

- 1) 2015年 10月14日（水）中川ひろみ氏（NPO 法人子どもへのまなざし代表理事）「子どもへの思いをかたちに～地元で活躍する女性の声を聞く～」
- 2) 2015年 10月26日（月）勝沼友紀子氏（生活環境学科助手）
- 3) 2015年 11月7日（土）常磐祭@日野キャンパス“キャリア探”スペシャル・トーク 第1部 先輩からのメッセージ  
高澤由香里氏（生活環境学科卒業生）  
山田早耶香氏（生活文化学科卒業生）  
第2部 トークショー  
森麻季氏（キャスター）  
「マスコミで働くということ」
- 4) 2015年 11月23日（月）佐藤しずか氏（生活環境学科助手），  
足立奈津絵氏（生活文化学科助手）

#### II. 0G 懇談会の実施（渋谷・日野） キャリアセンターと共催

例年、2月期に開催してきた0G 懇談会を2015年度、当・キャリア形成研究所の共催で開催した。

- 1) 渋谷キャンパス：2016年2月19日 0G 協力者 22名
- 2) 日野キャンパス：2016年2月27日 0G 協力者 21名

#### III. 学内外の大学生を対象とした調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」

（主担当：竹内美香教授、高橋桂子教授）

2015年度調査では、大学生のキャリア展望と進路探索に向かうための自己効力感醸成に及ぼすジェ

ンダー意識(ジェンダー観)の影響可能性について、進路探索における不安要因や困難に対する対処の自己効力認知などの個体的要因を含め検討することを目指して、調査票を作成し配布・回収した。

少数の男子も含む有効回答 1032 名の都内・都下の大学生の回答を収集することができた。

#### ■現在までの達成度

##### 1. 正課外時間での教育機会の提供: 講演会の継続的開催

渋谷と日野の両キャンパスに於いて「キャリアトークシリーズ」を開催することができた。課外時間帯における学生集客が昨今の経済情勢から厳しいことを考慮し、昼休みの時間帯の「ランチタイム・トーク」、また学園祭での特別講演などの形式をとり効果的な集客に努めることができた。参加・受講した学生たちの反応も積極的であり、卒後の進路についての関心の幅を広げる取組となったと評価している。

##### 2. OG と現役学生の交流機会の創出

キャリアセンターとの共催となった OG 懇談会を挙げる。今後は授業期間中などにさらに縦・横・斜めの「つながり」によるキャリア教育プログラムを試行する必要性を感じるようになったので、達成度は「半ば」である。

##### 3. 学内外の大学生を対象とした調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」

グランド・トータル(GT)と自由記述回答をまとめた一次報告書までを完成させることができた。2015 年秋から冬にかけての実施・回収・データ入力と解析の工程となった。冬期間の入力外注を経て、短期間での一次解析(GT)報告までを実現できたことは評価できると考えている。

#### ■次年度以降の研究(見込み)

##### 1. 「キャリアトークシリーズ」

渋谷・日野の両キャンパスで継続して開催し、学生自身のキャリアイメージを豊富化する取り組みを続ける。

##### 2. 上記に加え、就業力育成のための特別講座などを開催する。

##### 3. 研究・調査企画の実施を支援する

###### (1)2015 年度調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」の高次解析の継続

2016 年度は、GT 基礎解析まで遂行した本収集データについての二次的解析を継続する。解析で得られる成果は学会で発表し、論文投稿等、公刊による社会的還元を目指す。得られた知見は、学生指導場面(講義、演習、個人面談等)で、個々の学生の就業意識を啓発する資料として活用する。

###### (2)2016 年度の新規調査企画

1) 調査 1:「レジリエンス」、「適応感」、「居場所感」

2) 調査 2:「育休退園問題」に関する母親を中心としたインタビュー調査

##### 4. 内外の女性のためのキャリア育成と活用の取り組みについての視察・研修を行う。

##### 5. OG と現役学生との交流機会を実現する取り組みを継続する。

##### 6. その他、学生の就業と生涯就業継続を啓発し得る教育企画を試行する。

#### ■研究活動における成果

##### (1)研究成果(雑誌、学会発表、図書等)

###### 1. 渋谷・日野における学園祭で、活動中間報告を公開した。

###### 2. 学内外の大学生を対象とした調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」グランド・トータル(GT)と自由記述回答をまとめた一次報告書

###### 3. 実践女子学園男女共同参画推進室報告書に、一部、活動報告を寄稿し掲載された。

(2)学生・生徒の教育及び支援に関する還元

1.「キャリアトークシリーズ」: マスコミ、国際援助 NGO、児童福祉関係 NPO 職員等、幅広い分野で活躍する現役女性キャリア人材の登壇を依頼し講演を実現した。

受講した学生の中には、自身もそのような分野で仕事をするに関心を持っている者も多く、講演後の満足度評価も高かった。感想コメントでは「参考になった」「勇気づけられた」「これからの取り組みの見通しが持てた」などが寄せられた。就業イメージの醸成に寄与する講演企画は、今後も実施することが望ましいことが確認できた。

2.女子学生の就業イメージと社会的な性役割観を調査によって数値化することができたので、就業までの支援教育に効果的・必要なポイントを今後の研究により可能な限り具体的に抽出して行く。